

〔小児科〕

研修の特徴と内容

【特徴】

将来、小児を全人的に診療できる医師を目指すべく研修カリキュラムを作成している。希望者は3年目以降も当科および関連施設で継続して研修を行う体制により、日本小児科学会専門医制度の専門医試験の受験資格を最短で取得し合格できる研修内容である。また、日本専門医機構（平成26年6月設立）のプログラムに沿うものである。

【内容】

① 一般目標（G I O）

将来の専攻科にかかわらず一般小児疾患に必要な基礎知識、初期対応技術を含めた基本的技術、基本的態度を修得する。

② 行動目標（S B O）（技能）（解釈）（問題解決）（態度）（知識）

1. 疾患を診るのではなく、小児およびその児をとりまくすべてを診る全人的診療を基本として、小児の家族と良好な人間関係を確立できる。（態度）
2. 小児にかかわる社会的背景における健康問題を説明できる。（知識）
3. 新生児から小児の成長と発達、検査の正常値などを理解し年齢に適した評価ができる。（問題解決）
4. 適確な病歴の聴取能力と理学所見のとり方を修得する。（技能）
5. 健診、予防接種の知識を持ち、家族に適切な指示、指導ができる。（技能）
6. 新生児および小児のトリアージができ、緊急処置、蘇生法を修得する。（技能）
7. 新生児から小児に特有な疾患の病態生理し、検査・治療計画を立てることができる。（技能）
8. 周囲のスタッフとのコミュニケーション能力を持ち、チーム医療が実践できる。（態度）
9. 病態・疾患を把握し専門医への相談、転科、転院の必要性を判断できる。（問題解決）
10. 単独もしくは指導者のもとで新生児を含む小児の採血、皮下注射ができる。（技能）
11. 指導者のもとで小児の静脈注射・点滴静注、輸液、輸血ができる。（技能）
12. 一般尿検査（尿沈査検査、採尿パックの使用法、導尿法）、髄液検査（計算板による髄液細胞の算定を含む）を実施、評価できる。（技能）
13. 血液型判定・交差適合試験の実施を実施、評価できる。（問題解決）
14. パルスオキシメーターなど必要なモニターの選択および装着ができる。（解釈）
15. 血清免疫学的検査、細菌培養・感受性試験の評価できる。（知識）
16. 適切な鎮静法の上で単純X線検査、CT・MRI 検査の実施、評価ができる。（問題解決）
17. 小児の体重別・体表面積別の薬用量を理解し、基本的薬剤の種類と使用法の理解の上、処方箋・指示書の作成ができる。（知識）
18. 小児の年齢、疾患などに応じて輸液の適応、輸液の種類、必要量を定めることができる。（知識）
19. 小児外来診療の現状を理解し、研修医として外来診療に参加できる。（技能）

③ 研修内容（方略）（L S）

L S 1 : On the job training (O J T)

毎朝の会議、毎日の回診に参加し、チームの一員として指導医、上級医のもと外来・入院診療に参加し、臨床実習学生を指導する。

LS2：勉強会・カンファレンス

1. モーニングミーティング

新入院患者および時間外患者の症例提示と診断・治療の検討を行う。

2. 症例検討会

入院患者の症例提示と診断・治療の検討を行う。

3. 抄読会

文献提示、研究成果の検討に参加する。

4. 勉強会

小児科関連のアップデートな知識を共有する。

④ 教育に関する行事

<週間スケジュール>

毎朝午前8：30～8：45 入院患者及び時間外患者のモーニングミーティング

月1回 木曜日午後7：00～8：00 専門医に向けての勉強会

月 午前8：00～8：30 輪読会

午後5：00～6：30 新生児・腎疾患カンファレンス

水 午後2：00～5：00 症例検討会・総回診

午後5：00～6：00 抄読会・医局会

木 午前8：00～8：30 勉強会

⑤ 研修評価(EV)

1. 自己評価

EPOCを入力する。

2. 指導医による評価

EPOCへの入力状況、勤務状況の評価を行う。

3. 看護師による評価

EPOCを用いて、看護師からの評価を行う。

4. 研修内容の評価

研修医による小児科部門の評価をEPOCで行う。

指導医等

主任教授：竹島 泰弘

講師：皆川 京子

助教：田中 靖彦

助教：川本 久美

助教：福田 典子

助教：柴田 暁男

助教：下村 英毅

助教：柴野 貴之

助教：李 知子

助教：香田 翼

助教：三崎 真生子

助教：西岡 隆文

研修実施責任者

講師：皆川 京子